

別記様式（第3条関係）

会議録（1）

会議の名称	令和7年度 第2回桶川市いじめ対策委員会											
開催日時	令和8年1月16日（金） （開会）午後1時30分・（閉会）午後2時45分											
開催場所	桶川市役所 401											
主宰者の氏名												
議長の氏名												
出席者氏名 (委員)	4名											
欠席者氏名 (委員)	1名											
説明員氏名												
事務局職員 職名及び氏名	4名											
会議事項	<table border="1"> <tr> <td>議題</td> </tr> <tr> <td>開会</td> </tr> <tr> <td>1 あいさつ</td> </tr> <tr> <td>2 協議等</td> </tr> <tr> <td>(1) 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（令和7年11月 公表県資料より）</td> </tr> <tr> <td>(2) 桶川市生活アンケート2学期の結果</td> </tr> <tr> <td>(3) いじめの重大化を防ぐための留意事項集・ いじめの重大化を防ぐための研修用事例集について (令和7年11月 公表こども家庭庁・文部科学省 )</td> </tr> <tr> <td>(4) その他</td> </tr> <tr> <td>3 次回以降の予定について</td> </tr> <tr> <td>閉会</td> </tr> <tr> <td>決定事項等</td> </tr> </table>	議題	開会	1 あいさつ	2 協議等	(1) 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（令和7年11月 公表県資料より）	(2) 桶川市生活アンケート2学期の結果	(3) いじめの重大化を防ぐための留意事項集・ いじめの重大化を防ぐための研修用事例集について (令和7年11月 公表こども家庭庁・文部科学省 )	(4) その他	3 次回以降の予定について	閉会	決定事項等
議題												
開会												
1 あいさつ												
2 協議等												
(1) 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（令和7年11月 公表県資料より）												
(2) 桶川市生活アンケート2学期の結果												
(3) いじめの重大化を防ぐための留意事項集・ いじめの重大化を防ぐための研修用事例集について (令和7年11月 公表こども家庭庁・文部科学省 )												
(4) その他												
3 次回以降の予定について												
閉会												
決定事項等												
配布資料	<p>次第・名簿、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について</li> <li>②桶川市生活アンケート2学期の結果</li> <li>③いじめの重大化を防ぐための留意事項集・ いじめの重大化を防ぐための研修用事例集</li> </ul>											

## 会議録(2)

議事の経過	
発言者	発言内容
委員長	<p>開会            1 あいさつ(省略)            2 協議等</p> <p>(協議1)  <b>【令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果】について</b>            事務局より説明をお願いする。</p>
事務局	<p><b>【資料に基づいた説明】</b></p> <p>①暴力行為            発生件数は5,554件と右肩上がりであり、特に小学校での「生徒間暴力」が突出している。これがそのままいじめ事案としてカウントされるケースが多い。小学校では1人の児童が複数回暴力行為を行う事案も目立つ。</p> <p>②いじめ認知件数            埼玉県内では令和6年度に過去最多を記録。桶川市でも同様の傾向がある。学年別では小学2・3年生が最も多く、学年が上がるにつれて減少する。</p> <p>③発見のきっかけ            小学校では「アンケート調査」が52.9%と最多だが、中学校では「本人からの訴え」や「教員が気づく」ケースが増える傾向にある。</p> <p>④重大事態            県内でも増加傾向にあり、令和6年度は過去最多。不登校を伴う重大事態も多い。</p>
委員	調査結果より、いじめの認知の数が上がっていることは、よいことだが、その後の対応について学校内で共通の対応ができるか、どうかが大切だと思う。
委員	不登校の原因に占めるいじめの割合は低く、児童生徒の日常の学校生活だけでなく、家庭内での保護者との関りがどのような状況にあるかで、不登校の状況になるか否か決まると思う。

事務局	<p>(協議 2)</p> <p>桶川市「生活アンケート」2学期実施結果 桶川市では年3回児童生徒向けのアンケートを実施している。2回目(2学期)は、保護者向けにも実施している。</p> <p>集計結果について 2学期のいじめ認知件数は、市内全域で216件。昨年度同期比で小学校は112件減、中学校は5件増。全体では107件の減少となった。</p> <p>対応区分について 認知した216件のうち、担任レベルで解決可能なものが183件、学年組織対応が26件、学校全体での組織的対応が7件であった。 いじめの初期対応において、担任の認識や認知のレベル、保護者への事実の伝え方などが重要となる。</p>
委 員	<p>児童生徒のアンケート用紙にある 【あなたのまわりで、いやな思いをしている人を見たり聞いたことがありますか。】の設問の集計数値を経年で追うことで、傍観者となるかどうかの児童生徒の傾向を把握することができると思う。</p>
委 員	<p>同様に(周囲で嫌な思いをしている人を見たか)の項目は、いじめ解決の鍵になる。この「傍観者」からの情報を担任がどう吸い上げ、詳細を確認しているのかが重要である</p>
委 員	<p>アンケートの内容をどのように、確認し、その内容についてその後どのように扱うのかをしっかりと理解させて行うことで、本当に意味のあるアンケートになると思う。</p>
委 員	<p>一言に「悪口」といっても様々である。児童生徒からの訴えにどこまで具体的に把握するかによって、対応も変わってくると思う。可能な限り、具体的にどんな事を言われたのか、どんな行為があったのか、を記録し把握できるとよい。</p>
事務局	<p>(協議 3)</p> <p>いじめの重大化を防ぐための留意事項集・ いじめの重大化を防ぐための研修用事例集について</p> <p><b>【資料に基づいた説明】</b> 令和7年1月 こども家庭庁・文部科学省より発出された 【いじめの重大化を防ぐための留意事項集】・【いじめの重大化を防ぐための研修用事例集について】についてです。 こちらは、市内の学校にも発出し、各校の教職員間で研修資料として活用するよう指示したところである。 それぞれの冊子において、かなり詳細に記載されている。傍観者を生み出さない環境づくりについても、記載があり、今後校内で教職員が共通理解を深める際の根拠になる資料となる。</p>
委 員	<p>令和7年1月の発行ということは、学校への浸透度はどの程度か?</p>

事務局	校長会議、教頭会議、生徒指導担当者会議等、様々場面で周知を行い、年度末・年度初めの段階で、校内の共通理解を深める際に活用するよう指示している。
委 員	内容や設定がかなり詳細に記載されており、児童生徒の様子を把握する際にも、マニュアルになると思うので、効果的に活用が進むとよい。
事務局	(4) その他  3 次回以降の予定について（省略） 閉会